

日本博について

令和 3 年 5 月



Agency for Cultural Affairs, Government of Japan



独立行政法人

日本芸術文化振興会

1. 経緯

- 「『日本の美』総合プロジェクト懇談会」(主催:安倍総理〔～2020年9月〕、座長:津川雅彦氏〔～2018年8月〕・小林忠氏〔2019年月4月～〕)において、日本人の美意識・価値観を国内外にアピールし、その発展及び国際親善と世界の平和に寄与するための施策の検討等を実施。
- 「日本博」は、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を契機として日本の全国各地で実施することとされ、第6回の同懇談会(2018年6月22日開催)において、総理から文部科学省・文化庁に対して準備を進めるよう指示。第1回「日本博総合推進会議」を2018年12月26日に開催。また、第1回「日本博の開催等準備に関する関係府省連絡会議」を2019年2月26日に、第2回を同年10月17日に開催。
- 2020年3月12日に開催された第2回「日本博総合推進会議」において、総理からは、「新型コロナウイルス感染症の収束が視野に入った段階では、日本の素晴らしさを国際社会に向けアピールするため、日本博を一層強力に推進していく」とのご発言。

2. 関連スケジュール

2015年: 「『日本の美』総合プロジェクト懇談会」発足

2016年: 「日本仏像展」(於:イタリア)を開催

2018年: 「ジャポニスム2018」(於:フランス)を開催

2019年: 3月「日本博」旗揚げ式

: 「日本博」(於:日本)を試行的な事業も含め段階的に実施

: 「Japan 2019」(於:米国)、「響きあうアジア2019」(於:東南アジア)を開催

2020年: 国内観光需要の一層の喚起、インバウンド需要回復に資するコンテンツを発信

2021年: **新型コロナウイルス感染症の万全の対策を講じつつ全国で展開**

開催地での「リアル体験」と「バーチャル体験」を融合させ、引き続き、国内外へコンテンツを発信

1 総合テーマ：「日本人と自然」

2 基本コンセプト

「日本の美」は、縄文時代から現代まで1万年以上もの間、大自然の多様性を尊重し、生きとし生けるもの全てに命が宿ると考え、それらを畏敬する「心」を表現してきた。

日本は、景観や風土を大切にし、縄文土器をはじめ、仏像などの彫刻、浮世絵や屏風などの絵画、漆器などの工芸、着物などの染織、能や歌舞伎などの伝統芸能、文芸、現代の漫画・アニメなど様々な分野、衣食住をはじめとする暮らし、生活様式等において、人間が自然にたいして共鳴、共感する「心」を具現化し、その「美意識」を大切にしている。

「日本博」では、総合テーマ「日本人と自然」の下に、「美術・文化財」「舞台芸術」「メディア芸術」「生活文化・文芸・音楽」「食文化・自然」「デザイン・ファッション」「共生社会・多文化共生」「被災地復興」などの各分野にわたり、縄文時代から現代まで続く「日本の美」を国内外へ発信し、次世代に伝えることで更なる未来を創生する。

この文化芸術の祭典が、人々の交流を促して感動を呼び起こし、世界の多様性の尊重、普遍性の共有、平和の祈りへとつながることを希求する。

3 開催時期等

2021年を中心としつつ、その前後の期間も含めて幅広く展開


4 実施にあたってのポイント

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を契機に、「日本の美」を体現する美術展・舞台芸術公演・文化芸術祭等を全国で展開。

「縄文から現代」及び「日本人と自然」というコンセプトの下、日本が誇る様々な文化を、四季折々・年間を通じて体系的に展開。

新型コロナウイルス感染症の状況に鑑み、魅力あるコンテンツの発信などを通じて、2020年は実施主体において新型コロナウイルス感染症拡大防止の徹底、新しい生活様式を踏まえながら国内観光需要の一層の喚起や日本文化に関心がある海外層の訪日意欲を喚起しつつ、プロモーションを実施。

文化庁を中心に、関係府省庁や文化施設、地方自治体、民間団体等の関係者の総力を結集した大型国家プロジェクト

- 
- 2021年東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会前、期間中、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会後のインバウンド需要回復・拡充
 - 国内観光需要拡充・「地方への誘客」の促進
 - 国家ブランディングの確立
 - 文化芸術立国としての基盤強化

現状・課題

- ◎ 個々の分野、施設ごとに、インバウンド、情報発信などに対応しており、体系的・継続的な情報発信が十分ではない。
- ◎ 好事例として蓄積されたノウハウが全国に展開されていない。
- ◎ 新型コロナウイルス感染症への対策

方針

- 新型コロナウイルス感染症の万全の対策を講じた上で開催地での「リアル体験」と「バーチャル体験」を融合させた全国展開
- 戦略的プロモーション、体系的・継続的な情報発信、初めての人向けや訪日外国人向けコンテンツの開発、文化体験ツアー造成など
- 新しい手法・演出・技術を積極的に導入した取組を推進し、蓄積されたノウハウを全国に横展開

国民自身が、自国文化の魅力や素晴らしさを発見・再認識する機会の拡充

- ◎ 日本博の具体的な企画・実施を通じた魅力の再発見・人材育成へ
 - ・ 日本の歴史、芸術、食、自然環境等の魅力の再発見、価値づけを行い国内外へ発信
- ◎ 子供・若者・障がい者・高齢者が参加できる文化プログラム・体験機会の拡充
 - ・ 新たな技術・演出・手法も活用した伝統文化から現代芸術までの体験機会の拡充
 - ・ 国民参加型のプロジェクト実施 等

官民連携の下、オールジャパンで国内外への戦略的プロモーションを推進

- ◎ 質の高い文化資源による戦略的プロモーションのための仕組みの構築
 - ・ 全ての分野を体系的に扱った情報、VR・AR、高精細画像・映像の先端技術を活用したデジタルコンテンツの発信・多言語化等による海外プロモーション・パッケージを提供
 - ・ 観光庁、JNTO等との連携
- ◎ 官民連携による異業種連携プロモーション促進
 - ・ 文化との連携による商品開発や、企業の先端技術開発・アピール 等

文化による「国家ブランディング」を強化

戦略的取組による好循環を形成

「文化芸術立国」としての基盤を強化

文化による観光需要回復・拡充に向けた取組、「地方への誘客」の促進

文化による「国内観光需要の一層の喚起」「観光インバウンド需要回復」に向けた訪日意欲の喚起、「地方への誘客」の促進

- ◎ 多様な広報媒体による情報発信等による国内観光・インバウンド回復促進
 - ・ 官民連携体制によるニーズ把握、誘客のための多言語による情報発信やニーズに応じた相談・案内等の取組促進
 - ・ 実施期間中の社会的・経済的効果を個別に測定・分析・マーケティング等で活用 等
- ◎ 国内外の観光需要を喚起する映像コンテンツ制作・発信、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策などの情報発信
- ◎ 複数の文化拠点・事業による企画連携を取り込んだ周遊ルートモデルの開発

日本博総合推進会議

議長：内閣総理大臣 議長代理：内閣官房長官
議長補佐：内閣官房副長官（参）
構成員：オリ・パラ大臣、クールジャパン担当大臣、外務大臣、文科大臣、国交大臣、
小林達雄氏、小松大秀氏、島谷弘幸氏、高階秀爾氏

日本博の開催準備等に関する関係府省連絡会議

各省庁間の連携・調整

議長：内閣官房副長官（参）、議長代理：内閣官房副長官補（内政）
議長補佐（全体総括担当）：文化庁長官、議長補佐（オリ・パラとの連携担当）：オリ・パラ事務局長

文化庁 全体統括

オリ・パラ事務局 知財事務局 まちひとしごと事務局 アイヌ政策室 宮内庁 警察庁 総務省 外務省 国税庁 文科省 厚労省 農水省 経産省 観光庁 環境省

文化庁「日本博」企画委員会

有識者、地方自治体代表、産業界代表、日本博事務局事務総長

適宜助言等

企画の立案・実施への助言

国立文化施設

(独) 日本芸術文化振興会
日本博事務局
企画の立案・実施
事務総長：理事長

(独) 国立文化財機構

(独) 国立美術館

(独) 国立科学博物館

国立アイヌ民族博物館

国立近現代建築資料館

「縄文から現代」及び「日本人と自然」というコンセプトの下、日本が誇る様々な文化を、2021年を中心としつつ、その前後の期間も含めて幅広く展開する。



主催・共催型

「総合大型プロジェクト」

「日本博」の中核となる総合大型プロジェクト（国、文化施設、民間団体、事務局等が共同で企画・実施）

（イメージ）

- ・縄文から近現代の美術
- ・伝統芸能・現代舞台芸術
- ・メディア芸術
- ・生活文化・文芸・音楽等の複合領域を一つの空間で演出するプロジェクト

「分野別大規模プロジェクト」

「日本博」のテーマ及びコンセプトを加味した大規模な展示・公演等のプロジェクト（全国的な活動を行う団体等が主催）

（イメージ）

- ・地方自治体や文化関係団体等で一定期間実施するプロジェクト

※国は原則一部負担。ただし、被災地との共催、共生社会・多文化共生、最先端技術の導入等に係るものは例外とすることを想定。

公募助成型

「イノベーション型プロジェクト」
「文化資源活用推進事業」
「国際的文化フェスティバル展開推進事業（長期開催型）」
「地域ゆかりの文化資産を活用した展覧会支援事業」

各地域や団体の特色ある企画を公募し事業費を一部助成

（イメージ）

- ①地域の特色を生かして新たに企画・実施するプロジェクト
- ②文化関係団体が実施する新規性・創造性が高いプロジェクト

※国は原則一部負担。ただし、被災地との共催、共生社会・多文化共生、最先端技術の導入等に係るものは例外とすることを想定。

参画型

各地域や団体の特色ある企画を公募し企画内容を認定

（イメージ）

- ①テーマ、コンセプトに沿う日本を代表するプロジェクト
- ②「日本博」として国内外に発信するものとして相応しいプロジェクト

等

- ・2019年4月から公募等を行い、主催・共催型69件、公募助成型69件 **計138件を採択**
- ・参画プロジェクト **計288件を認証**

◆主催・共催型：69件（118件提案）

※一次受付：19件採択（23件提案）、二次受付：31件採択（46件提案）、三次受付：19件採択（49件提案）

◆公募助成型：69件（177件申請）

※一次募集：38件採択（113件申請）、二次募集：27件採択（48件申請）、三次募集：4件採択（16件申請）

◆参画プロジェクト：288件

◆プロモーション

- ・黒柳徹子氏を広報大使として任命
- ・観光庁、JNTOとの連携による海外発信
- ・ラインナップリーフレットの作成・配布、WEB（英語発信）等を実施
- ・今後、本格的なHP等の運用開始、国内外メディア・在京大使館の招へいなど本格的なプロモーションを開始
- ・関係府省との連携を具体的に企画・実施

（国立公園、日本酒、ファッション、共生社会、外交団招へい等）



黒柳徹子（撮影下村一喜）

- ・1次(1月から公募等開始):主催・共催型61件、公募助成型88件 **計149件を採択**
- ・2次(5月から公募等開始):公募助成型 **13件を採択**
- ・参画プロジェクト **135件を認証(2021年3月末現在)**

特に、1月に公募等を行った1次採択分149件について、新型コロナウイルスの影響等により事業計画の大幅な変更等が生じている。

◆主催・共催型：61件(1次採択分)

	予定通り実施	変更して実施 (今年度中)	辞退 (来年度実施含む)
実施済み (開催中を含む)	1	56	—
今後実施	0	0	—
計	1	56	4

◆公募助成型：88件(1次採択分)

	予定通り実施	変更して実施 (今年度中)	辞退 (来年度実施を含む)
実施済み (開催中を含む)	16	49	—
今後実施	0	0	—
計	16	49	23

◆公募助成型：13件(2次採択分)

	予定通り実施	変更して実施 (今年度中)	辞退 (来年度実施含む)
実施済み (開催中を含む)	6	7	—
今後実施	0	0	—
計	6	7	—

◆今後の方針

日本博総合推進会議（第2回）【2020年3月12日】（総理発言）

残念ながら、今週予定されていた日本博オープニング・セレモニーは、新型コロナウイルスの感染拡大を防止するため、開催を中止することといたしました。

現在は、感染の拡大防止に全力を挙げておりますが、収束が視野に入った段階では、日本の素晴らしさを国際社会に向けアピールするため、日本博を、一層強力に推進していくことといたします。

このため、本日委員の皆様からいただいた貴重なご意見をもとに、日本博が、縄文時代から現代まで続く「日本の美」を各分野にわたって体系的に展開する試みとして、より充実した内容となるよう、文化庁が中心となって、関係府省が連携して、さらに取組を進めてください。

・2020年度のプロジェクトの取扱方針

1. 新型コロナウイルス感染症対策について万全を期しつつ、極力開催する。
2. 新型コロナウイルス感染症の状況に常に留意し、必要な場合は時期・場所を変更する等の調整を行う。
3. やむなく中止となったプロジェクトは、可能な範囲で多言語映像コンテンツの制作・発信等を行う。

・2021年度のプロジェクトの実施方針

上記の取扱方針に加え、今後計画するプロジェクトについては、多言語映像コンテンツの制作・発信にも力を入れ、コロナ後の新たな環境を見据え、国内観光需要・インバウンド需要の喚起を目指す。

また、文化プロジェクトのイノベーションに資する取組を積極的に推進する。

※来年度の募集については、政府予算案決定後に開始予定。

- ・2021年度を日本博の本番年と位置付けるとともに、2022年度以降も国内観光需要の一層の喚起やインバウンド需要回復に資するコンテンツの発信等に取り組む。

【2020年度のプロジェクトの取扱方針】

1. 新型コロナウイルス感染症対策について万全を期しつつ、**極力開催**する。
2. 新型コロナウイルス感染症の状況に留意し、**必要な場合は時期・場所を変更する等の調整**を行う。
3. やむなく中止となったプロジェクトは、可能な範囲で**多言語映像コンテンツの制作・発信等**を行う。

【2021年度のプロジェクトの実施方針】

上記の取扱方針に加え、今後計画するプロジェクトについては、多言語映像コンテンツの制作・発信にも力を入れ、**新たな環境を見据え、国内観光需要・インバウンド需要の喚起**を目指す。

また、**文化プロジェクトのイノベーションに資する取組を積極的に推進**する。

2021年度を**日本博本番年**と位置づけ、年間を通じて、**開催地での「リアル体験」とデジタルコンテンツ等を通じた「バーチャル体験」を融合**させ、全国各地で実施。

◆採択実績（計136件）

区分	主催・共催型	イノベーション型	文化資源活用 推進事業	国際的文化フェスティ バル展開推進事業	地域ゆかり事業
件数	44	41	23	2	26

・参画プロジェクト：4月以降開催 認証件数 50件（4月末現在）

◆プロモーション方針

- ・ SNS（日・英）、WEB（日・英・中・韓・仏）、TVなどで発信
- ・ WEBサイト等の情報発信環境整備と映像等のデジタルコンテンツの充実（「バーチャル日本博」8月開始）
- ・ ターゲット層を明確にし、インフルエンサー等とのコラボによる海外への情報発信
- ・ 国内外メディアを活用した幅広い層への情報発信
- ・ 文化拠点や団体の関係情報も併せた情報発信

◆ 縄文から現代までの代表

国内各地の縄文文化から国宝、浮世絵(北斎など)、日本の衣食住、ユネスコ無形文化遺産、国立公園、マンガ・アニメ、ファッションなどにおいて、日本人が自然とどのように向き合い、文化芸術活動を通じて表現し、守り伝えようとしているか等をテーマに、海外の方々をはじめ日本の多くの方々に楽しんで頂くことを意識したプログラムです。

- 地方誘客・周遊につながる文化資源を生かしたプログラムを展開
- 【特徴】
- 若者や外国人が親しみやすい工夫を凝らした体験プログラムを展開
- 新しい手法・演出を取り入れた創造性の高いプログラムを展開

◆ 国内観光需要や訪日意欲を喚起するためのコンテンツ発信

能狂言、文楽、歌舞伎、組踊での舞台や、美術品・文化財の映像・解説、芸術祭などを、新型コロナウイルス感染症対策を踏まえたコンテンツとして制作し、「リアル体験」と「バーチャル体験」を融合した形で国内外に向けて発信し、国内観光・インバウンド需要回復に資する取組を行います。

◆ 全国展開

日本遺産や近代化遺産などの地で伝統芸能、伝統工芸、食文化などの日本博関連プログラムが企画され、地方誘客を目指しています。

- **アイヌ(民族共生象徴空間:ウポポイ)、沖縄の伝統芸能である組踊など国内各地で関連プロジェクトを実施、国内外へ発信**
- **地域発の国際芸術祭など**
地方公共団体と芸術団体などが連携して行う地域の国際的な芸術祭が多数企画され、国内外の人々の滞在型誘客を目指しています。
- **東日本大震災10年を迎えた復興関連プログラムを実施**

以上のような取組を通じて、ジャンルを超えた新たなパートナーシップ構築やプログラム創成のノウハウを蓄積し、今後のレガシーとして次世代へ繋いでいきます。